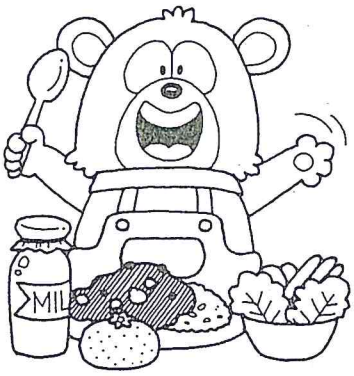
ぬくもりのある給食に

松　尾　佐世子

昭和三十三年四月、開園して間もない三年目の春、わたしは、栄養士として、園に赴任し調理を担当しました。ふたば園のスピーカーからかわいい童謡が園庭にながれていました。ジャングルジムや、ぶらんこ。砂場、その背景の真新しい白い小さな園舎に春のやわらかい光がふりそそいでいました。保育室で紺の制服にエプロン姿のかわいい園児に初めての対面、あいさつを交わした日が昨日のように思い出されます。



園も年次計画で整備されていくということで当時は、給食の調理は園児も少ないので本校の小さな調理室でまにあわせていました。

家庭的な温かみのある料理をつくるよう心掛け、寒い季節には、ミンチ肉を練り、肉だんごに根菜一杯のホットなシチューや、ひと手間かけたスコッチエッグなどつくりました。食材にも季節感のあふれた旬の素材をとりいれるように努め、さつま芋掘りを体験したときは、スィート・ポテトや大学いもを、リンゴの季節には「ウサギさん」にかたちどり目でみても楽しい料理にと工夫し食べさせたこともありました。

その後園児のほうも年々増え定員オーバーで抽選による入園の決定というようになってきました。そして待望の調理室もでき大切な幼児期の給食の調理に携わるものとして喜びも一入でした。四季折々の行事食も大々的に作ることができました。殊に一泊でのキャンプの食事作りは楽しみでした。保母さんたちにも入っていただき職員総出で調理にあたり、夕食のぎょうざも念入りに具をつくり一つ一つ丁寧に仕上げていきました。竹串を使った串カツ、トマトカップサラダ、朝食のサンドイッチ、などなど、それにデザートと調理室一杯の料理がならびました。いよいよ仲良しさんグループのにぎやかな食事会です。『ああ、おなか一杯。おいしかった。すごく満足』といったかわいい笑みにあふれた喜びの顔をみるのが楽しみでした。　また、レバーを使った料理も食べさせたいと注文したところカットされていないレバーがそのまま届き、新鮮なのはよかったのですが血抜きの下処理に大変だったことも忘れられない一コマです。氷で冷やす木製冷蔵庫が電気に変わり、便利な調理器具もでき、冷凍食品。インスタント食品。サプリメントと近年特に食の簡略化がすすんできましたが、やはり新鮮な食材での手作りの温かみは、欠かせないのではないでしょうか。

この秋、ふたば園最後の集いに参加させていただいた時には、間取りもすばらしく、便

利で、居ここちよい園舎になっていました。その園がやがて姿を消すとのこと、ありし日のさまざまな思いが脳裏をかすめ、その閉園が惜しまれてなりません。

私の青春・ふたば園

樋口和子

昨年11月にふたば園を訪れた時、園舎がどこにあるのかわかりませんでした。そこへ松尾さんが車から降りてきたので、二人で亀高運動場へ出てやっと見つけることができました。園舎の周囲は、体育館等の建物が大きな壁となり、子どもたちとよく探検にいった裏山は視界になく、ちょっぴり淋しく思いました。

私の時代は、みどり豊かな環境で、太陽がサンサンとふりそそぎ、木々は風になびき子どもたちの黄色い声が大空に響きわたり土堤の小道を高校生が散歩する姿も見受けられました。

私にとってふたば園といえば、まずこの光景が浮かんできます。次に下先生との出会いと園服、そして津〜亀山間の汽車通勤ですね。

昭和33年４月（当時20歳）にワープするためにアルバムの力を借りることにしました。

私の保育のスタートは桃組（４才児）20名、次年度黄組（５才児）31名の担任で、二年間同じクラスの担任をさせていただきほんとに感謝でした。４才児と５才児の発達過程を学び私の保育の基盤となったように思います。園行事は下先生と相談しながら、そして日常保育は全面的に私に一任されておりました。これはほんとに大変でした。保育雑誌を片手に保育案を作成し、型にはまらず子どもたちが喜んで活動できるような保育を求めて、四苦八苦していたように思います。でもふたば園には自由な空気があり、みんなの心はいつもはずんでいました。

私の心に残っている子どもの成長の節目になるような行事として、ふたば園キャンプ（お泊まり保育）、先生と子どもたちだけで出かけた遠足（東山動物園・名古屋港等）、準備も子どもたちの手でをモットーに、自分の席からすーっと出てきて始まる生活発表会がありました。こうした経験の中で、親離れへの自信、先生や友達との絆が深まり、ふたば園大好きの子に育っていったように思います。

今でも懐かしく思い出されるのは、ガリ版印刷（原紙がよく破れて時間がかかりました）だるまストーブ(煙突掃除ですすだらけになりました)、音楽ノート（楽譜を書き写して覚えました)、鈴鹿市立幼稚園へ移ってからもずーっと私の宝物として持っておりました。

社会人一年生の私、無我夢中で過ごした四年間、今振り返ってみると私の保育観は、糸をたぐりよせていくとふたば園と一本の線の上に立ってたんだと気付き、ドキッとしてお

ります。

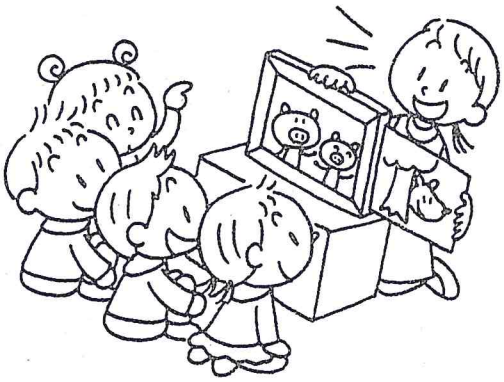
現在の私は、平成９年に退職し、自由な時間を楽しんでおります。ふたば園のことは終生え私の心の中に生き続けることでしょう。

閉園に寄せて

牛尾弘子

私は42年間ふたば園で勤務し、平成12年３月に退職しました。ふたば園で一緒に生活した全ての園児たちがとても懐かしく、愛しく想い出され、園児たちがいかに私の心の宝物であったかを改めて痛感しています。

「幼児が大好き」というだけが取り柄のような私を温かく受入れて、いろいろ御指導下さった先輩の先生方、そして、至らぬ私と共にふたば園を盛り上げて下さった、後輩の先生方のお陰で大過なく勤務することが出来ました事を感謝申し上げるばかりです。



ふたば園は、開園当時より、先輩の先生方の情熱と実践力によって、幼児教育の場として地域社会から厚い信頼と、高い評価がありました。この職場に就職が決まった時は、この上ない嬉しさと共に、責任の重大さを感じたものでした。先輩の先生方が築かれた土台の上を歩める安心感、有難さを感じながらも、日々の保育や、時代の移り変わりの中で戸惑ったり、焦ったり、落ち込んだりすることも多々ありました。このような時、私の心を支え活力を与えて下さったのは、保護者の方々の御理解と御協力でした。

ふたば園の想い出は、走馬灯の如くいつ終わるともなく脳裏を巡ります。「想い出誌」に綴れば一体何冊になることでしょう。46年前までタイム・スリップすれば、高校三年生の５月に保育室が完成し、待望の実習が出来るようになり、最高に嬉しかったこと。紺の上着に真っ白なフリル・エプロンの園服がフレッシュだったこと、実習生として参加した、お泊まり保育は、楽しくて一晩中ふくろうのような眼をして興奮していたこと、実習指導して下さった下先生、宮本先生にすっかりあこがれて、絶対に両先生のようになりたいと思ったこと、等々の想い出が今も鮮やかによみがえります。

46年間の歴史を持つふたば園が、平成15年３月に閉園になることは残念至極ですが、ふたば園の人間愛を原点とした育ての道は、創立以来の卒園児さんの心の中に受け継がれていくものと信じています。

ふたば園の思いで

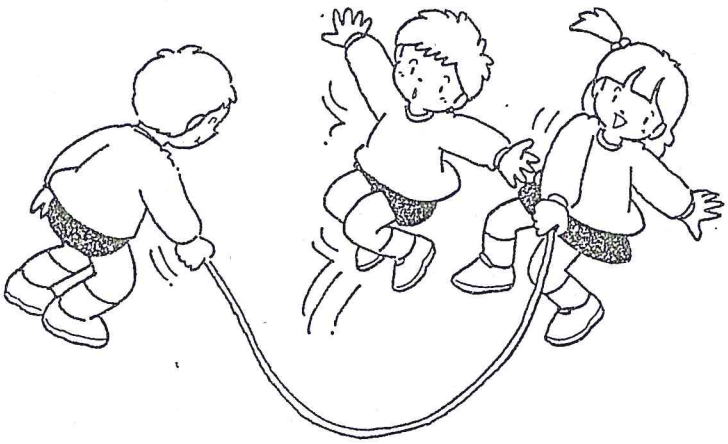
石田紀子

校門からタッタッタッと坂道を下ると、ふたば園の園庭に出ます。坂道には、プラタナスの木があり、園庭の方に枝を伸ばして立っています。園児が園庭のジャングルジムに登って怖々手を伸ばすとその大きな木の葉が手に届きます。「葉っぱが掴まえられた」と喜ぶ。自分がこんなに背が高くなったことに優越感を持っているのでしょう。また朝早く登園した園児は、真っ先にブランコに乗りに行きます。保育科のお姉さん達が、「おはよう」「おはよう」「おはよう」と、口々に、園児に声を掛けて坂道を急いで登校して行きます。園児達は実習に来るお姉さん達の挨拶に笑顔で答えています。今こんな風景が目に浮かびます。

私は、37～39年度の三年間、実習助手として、ふたば園に在職しました。

二年間は、給食を作る担当で先輩の先生から引き継いだ仕事でした。献立を立てたり、材料の買い付けに町を歩いたり、夢中でしたが楽しい経験でした。

後の一年間は保育が担当でした。ふたば園には、実習園だからこその施設がありました。それは四歳児と五歳児の保育室の間に、保育実習生が活用する観察室でした。保育室からは中が見えないが、中からは外の様子がよく見える部屋です。その頃には、教材室と併用していたと思います。　この観察室を時々、園児達とかくれんぼの場所として使いました。数人の園児と一緒に入り、じっと体を寄り添って声を小さくし、お互いの顔を見合わせながらかくれんぼをしました。隠れている時、子どもと同じ仲間であるというとても不思議な気持ちになれた事でした。観察室からは、鬼になった園児の気持ちや姿がよく分かります。こんな遊びを体験した園児達は、「先生、本を読んで」とか、何も声を掛けずにトイレに行っていた園児が「おしっこに行ってくるよ」とか、そっと側に来て手をつなぎにきたり、膝に乗りに来たり、一変して親しみを感じたものでした。



しかし、今思い出すと、観察室は園児達が入ってはいけない場所だったのかも知れません。私にとっては園児達との思い出の場所でした。

もう一つは、他の仕事として、高校生の音楽リズムの指導がありました。参考となる本探しに殆どの日曜日は費やしたことを思い出します。

この三年間は、私の人生にとって大きな経験をさせて頂いたふたば園でした。

大きな実りを残して

尾崎香織

11月3日に数年ぶりに、ふたば園で先生方との集まりに参加させて頂き大変楽しいひとときを過ごさせて頂きました。その折に、来年の三月末での閉園のお話を伺い予期していた事とはいえ、46年間の過ぎし日々を、重く受けとめとても一言では言えないほどの感懐に更りました。半世紀に近い年月の流れと共に、ふたば園が地域の幼児教育の発展と県下に二校しかない高校の保育科生の実習の場として生かされ、保育に携わる卒業生の方々が今も活躍されているという二面性を持った園であったという輝かしい偉業は、大きく評価されていいのではないでしょうか。創設以来の多くの教職員の方々の御努力と研鑽に他ならないと厚く敬意を表します。又、私自身も、その中で共に学び、働かさせて頂いていた日々があったという事を、懐かしく思い熱いものを感じます。

当時は、日本が高度成長期に入る直前の、まだ人の心が失われず、穏やかで亀山という土地柄のせいか御父兄の方も、とても熱心で協力的な方が多かったと思います。学生時代に御免状は頂いていたものの実習期間に幼稚園で学んだ程度だった為、見、聞きする事が新鮮で、とても可愛いメルヘンチックな世界に迷い込んだかのような毎日でした。

朝、登園してから帰園する迄、歌に始まって歌に終わり、笑ったり、泣いたり、木登りしたりする子達を追いかけ、自分も若かったせいか無我夢中で過ごした四年間だった気がします。当時は、年間の大きな行事等は、決まっていても細かなカリキュラムは、保育者が試行錯誤しながら考案していくシステムで、中々立案通りに行かなくて一日が終わると反省しては落ち込み、でも次の朝には、

「先生、おはよう!!」

と、元気に登園してくれる子供達に、反対に励まされて、〝今日も頑張ろう。〟と何度思ったか知れません。天から舞い降りてきた小鳥たちのように小さな身体で休む事なく動き廻り、楽しげにおしゃべりし、いたずらばかりする子等……。でも皆の心は、とても素直で純粋で、今思い出しても懐かしさで一杯になります。私自身も真正面から園児達と向き合って接し、そこからとても貴重な事を沢山学ばせて頂きました。

今になってふり返る時、私は、ふと大切な忘れ物をしたのではないかと悔やまれてなりません。命の尊さ・人を愛する心・弱い人への労り等、人間として生きていく上での心の教育を、きちんと園児達に伝える事が出来たのだろうか……。と。

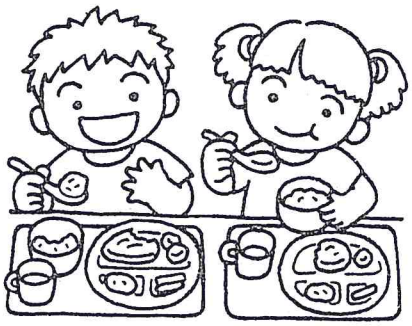
でもふたば園でよく歌った〝かわいいふたば、小さな芽〟の皆は、きっと今、大きな太い樹になってグローバルな世界に生き、社会に貢献する立派な人となり、暖かな家庭を持ち、心豊かに生きていて下さると信じています。

明るくて和やいで、いつも笑いの絶えなかったふたば園、皆に惜しまれ愛されたふたば園は、いつまでも、皆の心の中に生き続けてほしいと願っています。

「ふたば園の思いで」

福　田　喜代子

高校を卒業して牛尾先生のお口添えでふたば園にお世話になりました。当時は、給食のお手伝いと言う事でしたが、時々、保育のお手伝いもさせて頂き、今でも初めての母親参観日の日を一人で任された時は緊張し、心臓が口から飛び出すかと思う程で、手も足も震えた事を思い出します。春の遠足、夏のプール、デーキャンプ、キャンプファイヤー、フォークダンス、スイカ割り等、園児達と一緒に遊び、楽しみながら色々な事を学ばせてもらい貴重な経験を沢山させて頂いたと感謝しております。又、亀山高校の保育科の生徒さんの実習の時は、年令も近いせいか、友達感覚で接し、時には悩み事も相談された事もありました。今回、「ふたば園の思い出を」と言われましたが、何せ30年以上前の事ですので細かい事は悲しいかな忘れかけておりますが、その時のアルバムを出して写真をながめながら、園児一人一人の顔を思い出し、なつかしい気持ちになりました。六人乗りのブランコに乗っている姿、お砂場で顔も手も洋服もドロンコになってお山を造っている姿他いろいろな可愛い写真があり、とてもなつかしい気持ちになりました。笑顔いっぱいの園児と自分を見てこんな時もあったのだと目を細めながら私の青春の一ページに残っているのだとうれしくなりました。



未熟な私でしたが、諸先生方に助けて頂き、いろんな面で成長し、今があるのだと思っております。特に澤先生、悲しい事ですが昨年亡くなられた川戸先生には公私共に良きアドバイスを頂き大変感謝しております。

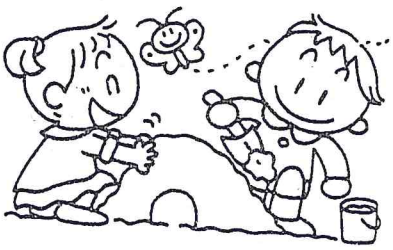
この度、思い出深いふたば園がなくなるのはとても悲しく残念でなりません。何らかの形で残して頂ければ幸いに思います。

ふたばの思い出

種　村　たね子

澤先生のご案内でふたば会に出席させて頂きました。

牛尾先生始め懐かしい先生方とそれに園舎、15年前に戻った様でした。初代から代々と受け継がれた、他の実習園ではあじわえ無いような園でした。その中でお手伝いさせて頂けましたよろこびを感じました。私が心に残っています事は、始めはおかあさんから離れられなかった子が、だんだんと先生大好きになり、そして一年生になったとき大きなランドセルを見せにふたば園に寄り道してくれた事です。「先生、どぅ」と自分の大きくなった、うれしさをみてほしい気持ちと「先生どうしているかなぁ」と言う様子に幼い手でしっかりと握った先生とのキャッチボールの素晴らしさに毎年感動を覚えました。幼児が体験する自立への一歩を実に温かく先生方は手を握り返して下さったと思っています。



ここで私は故人となられました川戸先生の事、少々早口でお仕事されたお姿を思い出します。

時代の流れは止めようもなく、平成15年閉園と刻々と時の刻まれる中でふたば園を卒園された数多い方々のふるさとの様に心に残る事でしょう。

ふたば園の思い出

横　山　久　美

私は亀高の保育科を卒業して、牛尾先生から「種村先生が、給食婦の仕事を辞められるので給食婦の仕事をやってみないか」と言われ私は、それまで料理を作るどころか包丁も持ったことがなく不安とよろこびでいっぱいでした。不安いっぱいの中、五月より給食婦の仕事をさせて頂くことになりました。慣れない私を川戸先生は何ごとも助けてくれて、本当にありがたく思いました。

ある日、キャベツの千切りを１時間かかって切ったことがありました。今思えば大変仕事のロスをしていたことか思いますが、川戸先生は「キレイに切ってくれて」と言ってくれました。本当に嬉しかったです。川戸先生には、いろんな料理の作り方など教えていただき、今の生活にも大変役立っております。

給食以外にも、おたより作りなど、私には縁のないと思っていたワープロも使いこなせ

るようになり大変勉強になりました。

そして私が、今でもふたば園での思い出の中で一番思い出に残っていることは、地震の避難訓練の時教室から避難をして少し広くなった所に園児が全員揃ったところで牛尾先生から話があり「地震の時は何かしっかりした物につかまると安全です。」と言われた時ある園児が私の足をしっかりと抱え込んでいました。私の中で一生忘れられない出来事になっています。

ふたば園が終わりを向かえることはとても寂しいことですが、私の胸の中には、5年間と短い期間でしたが、たくさんの園児の顔や楽しかった出来事でいっぱいです。

「私とふたば園」

澤　美千代

昭和44年ふたば園勤務が決まり、4月1日足を踏み入れると、牛尾先生と奥岩（福田）先生が年少組の壁面飾りをしてみえたのが今でも鮮明に浮かびます。以来平成13年度まで牛尾先生に支えられながら2人3脚で走ってきました。先生には未熟な私をここまで育てていただき公私共にお世話になりました。給食担当の故人となられた川戸先生と3人のコンビは30年間続きました。この間給食のお手伝いをしていただいた、たくさんの先生方と出会い家族的で和気藹々とした職場で働けたことうれしく思っています。

ふたば園を築き上げられた諸先輩の先生方の意思をどれだけ受け継いでくることができたのか少々不安はありますが、ともかく初めて集団生活に入る幼子たちが安心して登園できるふたば園にしたく、ひとりひとりの行動を暖かく見守り受けとめてきました。

いろいろな遊びを経験していく場、友達とのかかわりを広げていく場として、幼子たちと共に歩みながら困ったことがおきた時、皆で考え自分たちで解決できる子供になってほしいと話し合いの場を多くもったり、チャレンジ精神が育つよう励ましたりしながら成長のお手伝いをさせていただきました。また、ふたば園は他の幼稚園や保育所と違い保育科生とのかかわりもあり幅広い人間関係が築き上げられました。幼児と高校生が交わり、触れ合うなかでお互いに成長するこんないい施設が14年度で閉園を迎えることは非常に残念でなりません。34年間を振り返ってみると、かわいい幼子たちと感動を共有したり、夢をもらっ

たり、励まされたことが走馬灯のごとく思い出されます。

最後の今年は当然１クラス、それも11名と寂しくなり幼児たちは、満足した集団活動ができるのかと心配し隣の東幼稚園と交流をもってきましたが、11名の幼児たちはわれわれの胸のうちを吹き飛ばすかのごとく元気がよく活気があります。また、今年の幼児教育コース生は快く行事にも参加し盛り上げてくれました。これこそが本当のふたば園の姿ではないでしょうか。

卒園された皆さん、その保護者の方々、保育科（幼児教育コース）を卒業された方々、ふたば会（創立以来ふたば園職員の会）の皆様おひとりおひとりの心の中に思い出の１ページとして残っていることと思います。

さようなら　　ふたば園

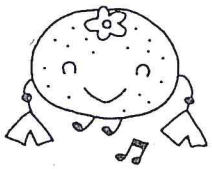
ありがとう　　ふたば園

ふたば園の思い出

林　　幸代

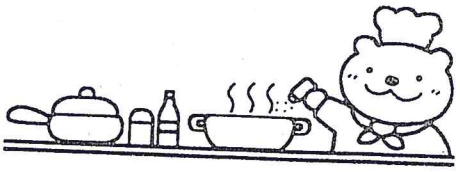
長いようで短かったふたば園との生活もとうとう終わってしまいました。

私の中でふたば園は高校生の頃からの付き合いになります。ふたば園で働かせて頂く事になった時、最初は何もかも初めての経験で不安一杯の毎日だった事を今でも鮮明に思い出します。まるで入園した頃の園児と同じような気持ちでした。



それが諸先生方の御指導のおかげで何とか今日までやってこれた事に感謝致しております。

給食作りもいちから教わり、あぶなげながら園児達においしい給食を……と頑張って作った事、そして何より園児達の笑顔にどれだけ励ましてもらった事か、園児は毎日が新しい発見の連続で、私の方がとてもいい勉強をさせて頂きました。



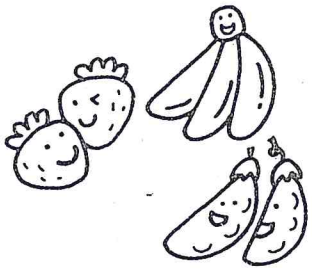
友達みんなで協力してひとつになった運動会、クリスマス会、一生懸命歩いた遠足、数々の行事が思い浮かびます。今となっては園児や諸先生方とふたば園で過ごした日々が私の心のアルバムとなって残っております。純粋で元気一杯の園児の皆さんと過ごし、勇気づけられたり、パワーをもらった毎日でした。沢山の思い出を残し

てくれたふたば園、本当に長い間みんなを楽しませてくれて有り難う。今日まで私を支えて下さった沢山の諸先生方、お世話になり有り難うございました。

ふたば園を振り返って

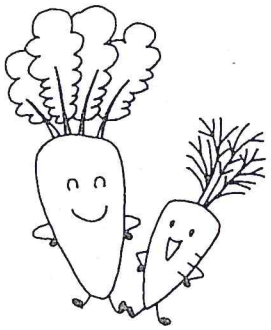
服　部　幸　子

私がこの園で仕事をさせて頂くきっかけは、今亡き川戸先生が病気でお休みになりその間栄養士として働かせてもらってはどうかと牛尾先生からお話を頂きました。



初めは何もわからず不安も共なってご病気の川戸先生に頼りきりの毎日でした。川戸先生は療養中にもかかわらず初対面の私にでも優しく接して頂き、そして色々な段取りをてきぱきと教えて下さいました。川戸先生がいらっしゃらなければ今の私は無いと言っても過言ではないかと思います。天界におられる川戸先生有り難うございました。そうこうしている間に仕事にも慣れ、園児たちの様子も見られるようになりました。桃組の時には、好き嫌いの多い子、食べるのが遅い子も黄組になっていくにつれ何でも食べられる様になりそして、少しでも早く食べようとする姿を見て、皆がんばっていると思うと献立を立てる時にも子供の姿が目に浮かび、張り合いがでてきて嬉しくなってきました。

給食作りだけでなく、園児と遊んだり、触れ合ったりする事ができる園がなくなるのはとても残念です。でも園児達は、ここがふたば園が一生のうちではじめての集団生活をする場所だったんです。この園児達の人生の中で少しでもお役にたてたのなら大変うれしい事です。これからも皆さん元気に過ごしてほしいものです。



最後に諸先輩方に大変迷惑をかけた事をお詫びし、お礼申し上げます。有り難うございました。

ふたば園を通して

倉　田　佳　美

ふたば園は、亀山高校の保育科（現総合生活科幼児教育コース）の卒業生、学生にとっても心の拠り所の一つです。「ふたば園が無くなるらしい……。」と、どこからともなく聞き、無くなる前に一度学生時代の思い出のふたば園へ寄らせてもらおうとおじゃました事がきっかけで、澤先生から声をかけて頂き、最後の一年間を務めさせて頂くことになりました。11名と園児数は少なかったですが、子ども達は、年長児一クラスとは思えない程元気一杯でした。学生時代に実習を通していろいろな行事等に参加をしましたが、やはり忘れている事もあり、「あー、あんな事もあった。そうそう、こんな事もしたなあ。」と懐かしさを感じ、日々驚きと発見の連続でした。

平成14年度は、東幼稚園との交流、亀山高校80周年記念式典、亀山高校学園祭と他園の子どもとの交流、高等学校との交流と行事にも幅があり、子ども達にとっても、私自身にとってもいろいろな経験をさせてもらう事ができました。これは、私の財産の一つとなっていくと思います。私自身、保育園での勤務経験はありますが、まだまだ保育者としては未熟者です。この一年間何もかもが手探り状態で慣れた頃にはふたば園は幕を閉じます。

一年間やってこられたのも澤先生、服部先生、林先生の支えとご指導があり、４人という恵まれた職員数、４人のチームワークのおかげです。

ふたば園を離れても私の保育の原点はふたば園です。これからもこの原点を忘れずに頑張っていきたいと思います。

ありがとう　ふたば園……

ふたば園は永久に不滅です。

川戸先生を偲んで

林　　幸代

川戸先生との思い出の詰まったふたば園もとうとう閉園になってしまいました。

初めてふたば園で出会った先生それは私がまだ保育実習生でした。その頃はまだふたば園にお世話になるとは思っていませんでした。その私がふたば園で先生と共に働かせて頂く事になり、右も左も分からず未熟な私を、先生の温かい御指導のおかげでやっと先生の足元に少し近づけたかなと思った矢先、先生がご病気療養のため休暇をとられました。その時私としては、目の前が真っ暗になりましたが毎日先生の温かい笑顔や言葉に励まされ、楽しく働かせて頂いたかわかりません。

ご体調の優れない日々でも、ひとつも顔に出されず親身になって相談にのって頂きました。色々心配をして頂き、私の中では第二のお母さんのような存在でした。

ふたば園を離れても、先生のお姿を初め多くの諸先生方、卒園児達も先生と過ごした楽しい思い出はいつまでも心の中に残っているでしょう。

先生、本当にお世話になり、思いやりのある暖かいお心有難うございました。

心よりご冥福をお祈りいたします。